

5. キャンパスマスタープランの策定と実現を担う体制について

施設マネジメントの実施体制

本学の施設マネジメントの実施体制は、平成16年度より**学長のもと**に、施設マネジメントを統括する**全学委員会**である、**施設マネジメント委員会**を置き、その下に環境対策ワーキンググループ、施設有効活用ワーキンググループ及び内部評価チームからなる組織である。

施設マネジメント委員会は、理事、各部署等教員、事務局部長等で構成し、本学の建物、設備、屋外環境、土地等に関する施設計画、施設管理及び環境対策等について審議を行っている。

学長が全学的視点から戦略的に学内資源配分を行えるよう戦略的委員会の1つとして位置付けられている。

優先的課題に対して、**多様な財源を活用した施設整備に継続的に取り組むため、組織的に必要な財源の確保・獲得を行う**など着実な推進を担う体制を構築する。

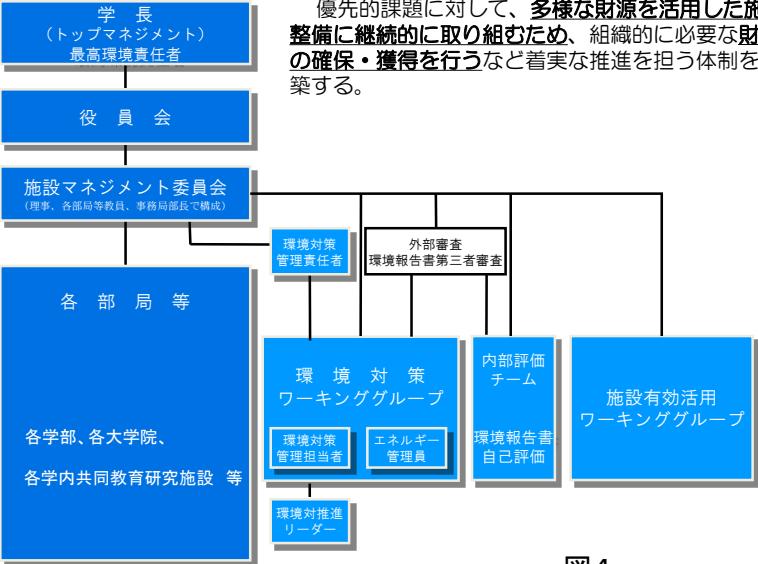


図4

施設マネジメントの策定プロセス

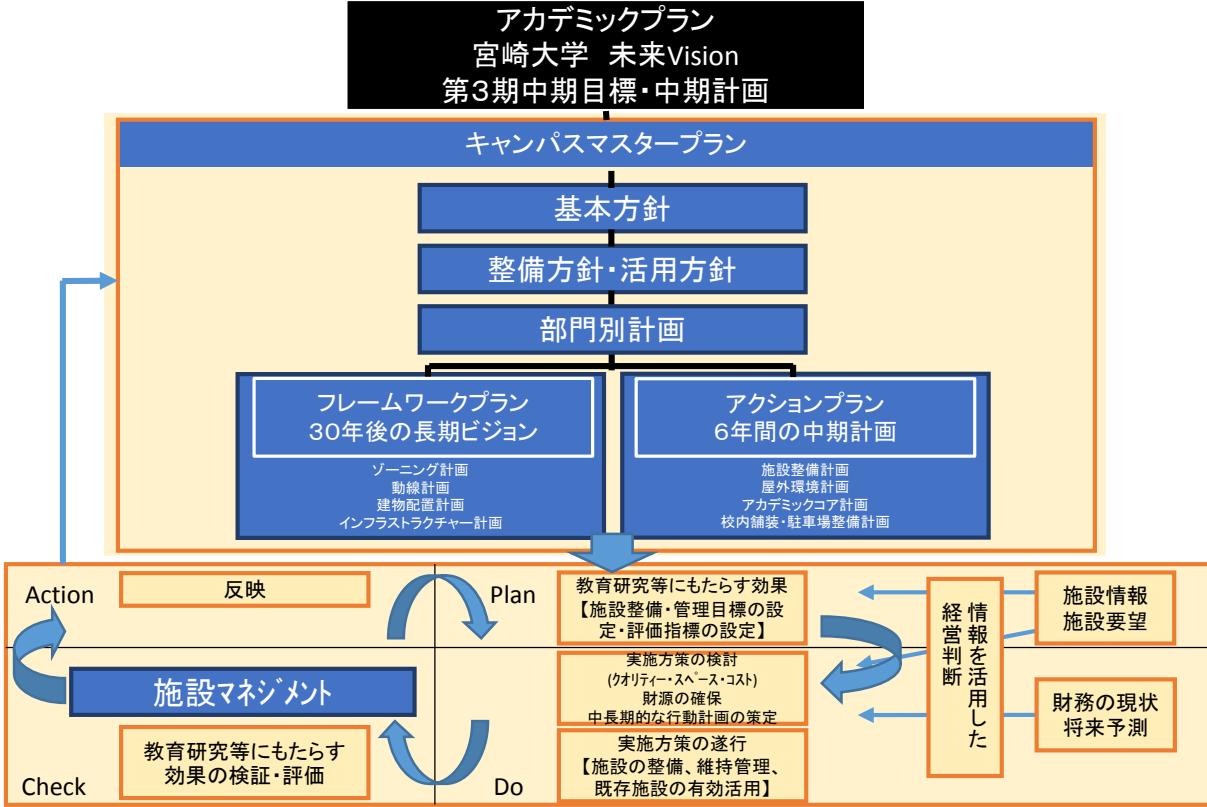
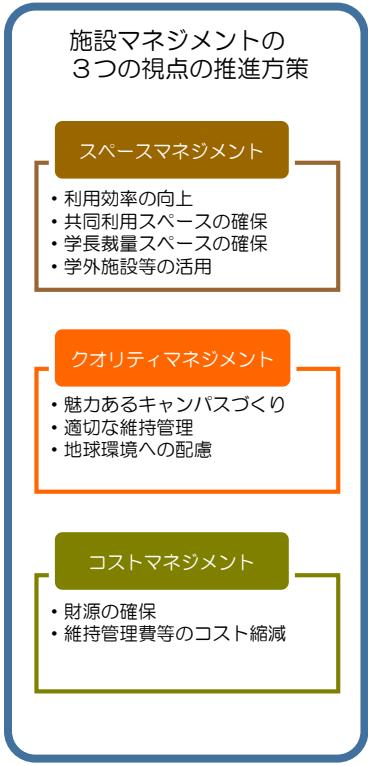


図5



宮崎大学キャンパスマスタープラン2017(概要) 平成29年3月 宮崎大学

- 大臣通知に記載された「キャンパスマスタープランの充実」を推進
 - ・平成27年6月8日付27文科高第269号「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて（通知）」
- 第4次国立大学法人等施設整備5か年計画の趣旨に即した、整備目標に寄与する取組を推進
- 概算要求のキャンパスマスタープランに関する評価項目に即した内容とした
- なかでも老朽対策が喫緊の課題となっている木花キャンパスについて、第三期中期目標期間中に注力する必要があることから、優先して見直しを行う

キャンパスマスタープランの5つの見直しポイント

ポイント	現状マスタープラン	見直し後マスタープラン
1. 基本方針について ・第三期中期目標期間におけるアカデミックプランや経営戦略の実現を図るため、必要な「施設機能」を検討し、基本方針を策定する。	1. 教育研究等の活性化を図るキャンパスを整備する 2. 安全・安心なキャンパスを整備する 3. サステイナブルなキャンパスへの転換を図る 4. 地域社会との共生を図る	(1)安全・安心な教育研究基盤の整備 (2)教育研究機能の発展 (3)地域貢献の推進 (4)産学連携の強化 (5)国際化の推進 (6)地球環境問題への貢献 (7)魅力あるキャンパス環境の充実
2. 整備方針について ・優先的課題として基本方針に掲げる施設機能について、その整備の方向性(整備対象、整備手法、達成状況・達成時期 等)を明確にする。	・計画施設配置図	●フレームワークプラン(30年)の策定 ●地(知)の拠点形成を促す施設整備 ●異分野融合を促す施設整備 ●グローバルキャンパス形成を促す施設整備 ●地域への高度医療提供を促す施設整備 ●戦略的かつ機能的な大学運営
3. 活用方針について ・基本方針に掲げる施設機能の整備について、資源(スペース)配分の方向性(配分対象や量、具体的手段、達成状況・達成時期 等)や保有面積の抑制の方向性を明確にする。		●行動計画 ・アクションプラン(6年)の策定 ・施設整備の年次計画 ・集約化・再配分等の年次計画 ・保有面積抑制・土地譲渡処分に係る行動計画(今後検討) ・インフラ長寿命化計画の作成、推進
4. 実現に向けた取組について ・優先的課題として基本方針に掲げる施設機能について、整備方針・活用方針に基づき、行動計画を作成する。	・施設整備年次計画	●実施体制 ・多様な財源を活用し、大規模改修、改築、新増築、借用等の継続的な取組 ・PPP/PFI手法導入検討 ・マネジメント体制(専門教員)の強化 ●PDCA
5. キャンパスマスタープランの策定と実現を担う体制について ・組織的に必要な財源の確保・獲得を行うなど、着実な推進を担う体制を構築する。	・実施体制 ・PDCA	●実施体制 ・多様な財源を活用し、大規模改修、改築、新増築、借用等の継続的な取組 ・PPP/PFI手法導入検討 ・マネジメント体制(専門教員)の強化 ●PDCA

2. 整備方針について、3. 活用方針について

整備方針・活用方針

- フレームワークプラン(30年)の策定
 - ・秩序あるキャンパスの視点(「変えてはいけない部分」と戦略的に「変えていく部分」の明確化)
 - ・キャンパスの高度利用の視点
 - ・施設の集約化の視点 等
- 地(知)の拠点形成を促す施設整備
 - ・異分野融合を活かした教育の展開を促す施設整備
 - ・地域貢献推進を促す施設整備
 - ・産学連携強化を促す施設整備
- 異分野融合を促す施設整備
 - ・アクティブラーニングや交流を促す施設整備
 - ・オープンラボの拡充整備
- グローバルキャンパス形成を促す施設整備
 - ・留学生受入促進への対応
 - ・視認性の高いキャンパスサイン計画
- 地域への高度医療提供を促す施設整備
 - ・特定機能医療機関としての機能強化
 - ・地域医療への貢献
- 戦略的かつ機能的な大学運営
 - ・安全・安心な教育研究基盤の整備
 - ・施設マネジメントの推進のための仕組みの構築
 - ・施設の有効活用、保有面積抑制
 - ・学内リソースを活用した魅力あるキャンパス環境の充実
 - ・適切な維持管理
 - ・省資源・省エネルギー、再生可能エネルギーの導入等、環境負荷の一層の軽減に向けた取組を推進
 - ・多様な財源を活用した施設整備の推進

フレームワークプラン(木花キャンパス)

1. フレームワークプラン策定の方針
 長期的な視点に立って、効果的かつ効率的にキャンパス将来像を実現するために、30年後に目指す計画目標をフレームワークプランに示す。
 また、将来にわたって維持されるべきキャンパスのあり方をゾーニング計画、動線計画、建物配置計画、インフラストラクチャー計画に分けて策定した。

木花キャンパス利用計画

1. 工学部・農学部機能改修
2. 国際交流会館改修
3. 福利厚生ゾーンの整備
4. 海外サテライトオフィス
5. 山王池周辺環境整備
6. パブリックスペースの整備
7. 建物長寿命化整備

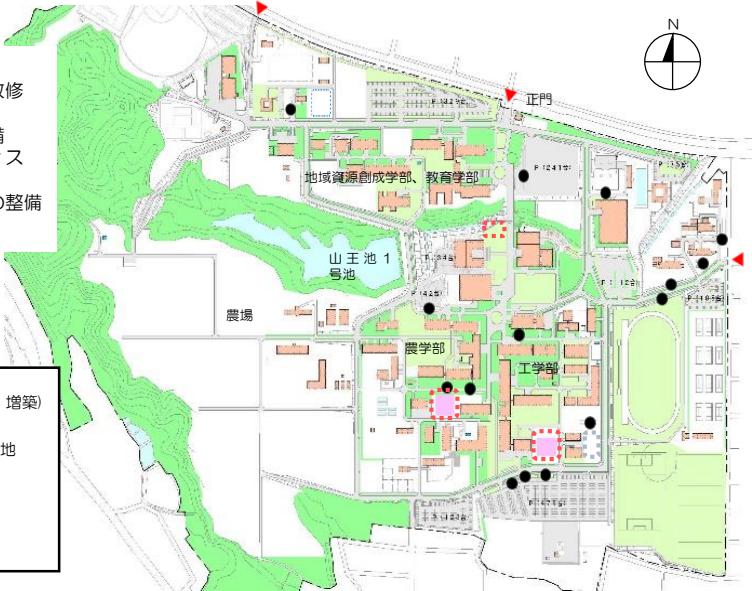
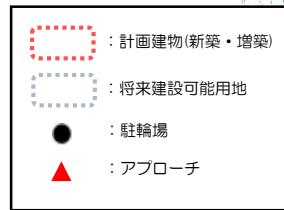


図1

フレームワークプラン(木花キャンパス)

(一例)

ゾーニング計画

教育研究ゾーンの教育学部エリアと福利厚生ゾーン、共同利用ゾーン、産学地域共同ゾーンを戦略的整備エリアとし、優先的に整備を行っていく。

- ・教育・研究ゾーン…農学部と工学部については既存のゾーンを継承する。地域資源創成学部の設置に伴い、教育学部のゾーンについて面積の集約化を行い共同利用ゾーンの形成を行う。
- ・福利厚生ゾーン(アカデミックコア)…キャンパスの特徴ある空間となっているため、魅力的で誰もが親しみをもてる多様な交流ゾーン形成を行う。
- ・共同利用ゾーン…教育学部の保有面積が増加しているため、面積の再配分を行い共同利用ゾーンとして転用していく。
- ・産学地域共同ゾーン…
- ・農場ゾーン…建物については集約化を行っていく。
- ・運動施設ゾーン…既存のゾーンからの変更はない。
- ・保全緑地…緑地保全地域として保全していく。

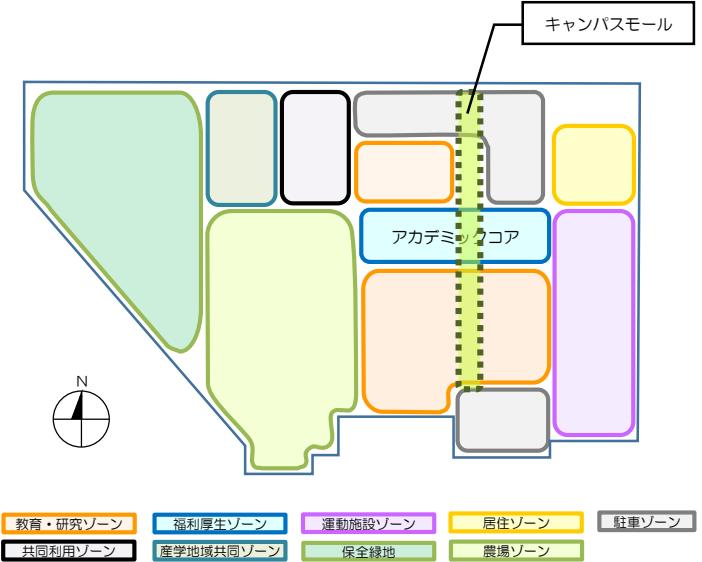


図2

4. 実現に向けた取組について

アクションプラン(木花キャンパス)

1. アクションプランの策定

第3期中期目標・中期計画である2021年までの6年間に実行すべきアクションプランを示す。

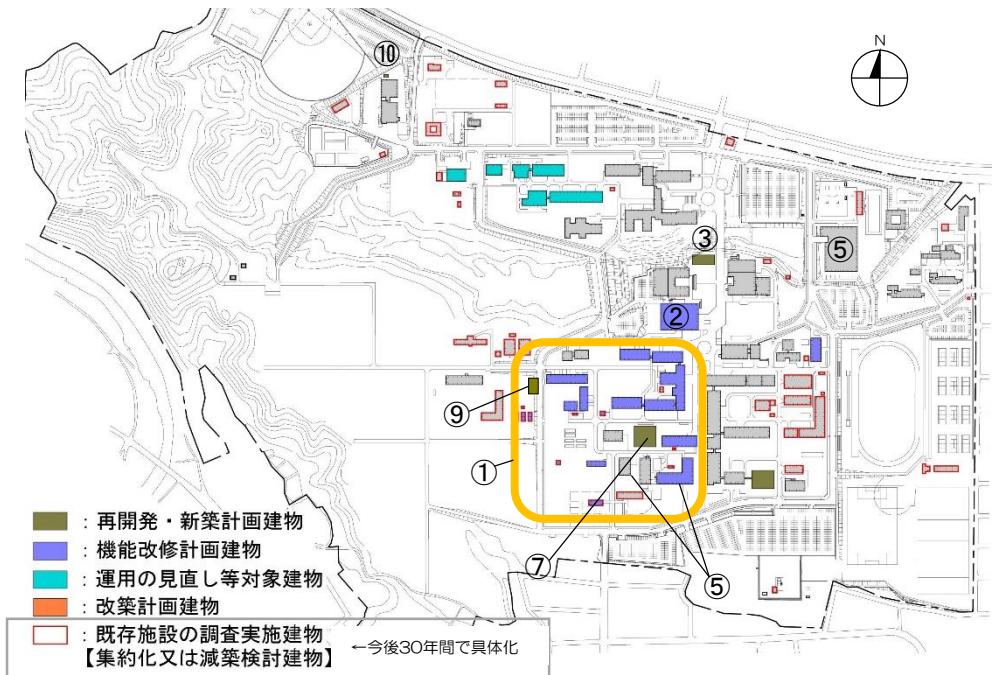


図3

将来にわたる本学全施設のインフラ長寿命化年次計画に基づく第3期中期目標期間で実施するアクションプラン(6年間)を掲載。

施設整備(自己財源分)の年次計画(一例)

種別	団地	学部	建物名	内容	建設年度	経過年数 2016	金額(千円)	第3期中期計画(2016~2021年度) アクションプラン							
								整備年度(千円)							
								2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度		
省エネルギー(空調改修)	木花	共通(教育)	講義棟	空調	2004	12	23,000								
	木花	共通(教育)	講義棟	空調	2004	12	35,800						35,800		
	木花	共通(教育)	講義棟	空調	2005	11	17,400						17,400		
	木花	共通(教育)	講義棟	空調	2006	10	25,400							25,400	
	木花	工学部	工学部棟(電気工事のみ)	空調	2000	16	14,000								
	清武	医学部	講義実習棟	空調	2001	15	116,600	25,000	0	8,000	0	57,200	25,400		
							100,000	0	30,000	0	30,000	0	0	0	
							100,000	0	30,000	0	30,000	0	0	0	
							30,000				30,000				
							30,000	0	0	30,000	0	0	0	0	
省エネルギー(照明改修)	木花	工学部	工学部B棟	LED	1986	30	5,000		5,000						
	木花	教育学部	講義棟(1、2階)	LED	1988	28	5,000			5,000					
	木花	教育学部	講義棟(3、4階)	LED	1988	28	5,000				5,000				
	木花	事務部	福利施設棟(1~3階)	LED	1984	32	5,000					5,000			
	木花	事務部	事務局棟	LED	1986	30	4,000						4,000		
	清武	医学部	福利施設(1階廊下・談話室・階段室)	LED	1976	40	1,000		1,000						
	清武	事務部	体育館(更衣室・シャワー室・トイレ)	LED	1976	40	1,000		1,000						
	清武	事務部	中央機械室	LED	1976	40	2,000			2,000					
	清武	医学部	附属病院	LED	1977	39	3,000			3,000					
	清武	医学部	看護師宿舎	LED	1977	39	1,000			1,000					
トイレリニューアル	清武	医学部	臨床研究棟	LED	1988	28	3,000				3,000				
	清武	病院	MR I-C T棟	LED	1989	27	3,000					3,000			
	清武	医学部	講義実習棟	LED	1975	41	10,000						10,000		
							24,000	0	2,000	6,000	3,000	3,000	10,000		
							3,000		3,000						
							4,000			4,000					
							2,000				2,000				
							9,000	0	3,000	4,000	2,000	0	0	0	
	トイレルニューアル	木花	事務部	動物病院		1985	31	6,000	6,000						
		木花	事務部	事務局棟		1986	30	22,800					22,800		
木花		フロント/ロビー/ティニア(RI木花分室)			1987	29	600						600		
木花		事務部	体育館		1987	29	22,800		22,800						
							52,200	6,000	22,800	0	22,800	600	0		
清武		医学部	福利施設		1976	40	18,300					18,300			
清武		事務部	体育館		1976	40	6,600					6,600			
							24,900	0	0	0	0	24,900	0		
花殿		教育学部	附属小学校体育館		1996	20	10,800					10,800			
花殿		教育学部	附属中学校体育館		1996	20	38,700						38,700		
						49,500	0	0	0	10,800	0	38,700			

表1